

IV 調査結果のまとめと今後の課題・方向

政府の「バリアフリー化推進要綱」では、関係府省が一体となって、ハード・ソフト両面にわたるバリアフリー化のための施策を推進し、概ね 10 年後を目処に高齢者、障害者をはじめ誰もが社会の担い手として役割を持つ国づくりを目指している。

今回調査は、「バリアフリー化推進要綱」を推進するにあたり、国民のバリアフリーやユニバーサルデザインに関する認知度とあわせ、分野別にみたバリアフリー化の評価等をたずねることにより、国民や利用者の状況やニーズに対応したバリアフリー化推進の方向を探るために実施したものである。

以下、今回調査で実施した 2 つの調査結果を通して、バリアフリー化の現状と問題点、今後の方向性などを整理する。

1 国民意識調査にみるバリアフリー化に関する評価

まず、国民のバリアフリー化推進に関する意識、評価、今後の期待などについてみる。

(1) バリアフリー・ユニバーサルデザインの認知度

- ・ 『バリアフリー』については、「ことばも意味も知らない」人は 4.5%で、ほとんどの国民に認知されている。若い世代での認知度は特に高く、男女とも 20 代から 40 代まででは「ことばも意味も知っている」という人が 9 割にのぼっている。(問 1)
- ・ 『ユニバーサルデザイン』については、「ことばも意味も知っている」と答えた人は 3 割程度、ことばだけを知っている人を合わせても 6 割強であり、「ことばも意味も知らない」が約 35%にのぼるなど、『バリアフリー』と比較すると認知度は低い。また、『ユニバーサルデザイン』は『バリアフリー』と異なり、同年代での認知度に違いがみられる。「ことばも意味も知っている」割合では、20 代と 40 代では男女で 10 ポイント以上の開きが見られる。特に女性の 20 代は、バリアフリーという「ことばも意味も知っている」人が 94%にのぼり、世代間比較では一番多いのに対し、ユニバーサルデザインという「ことばも意味も知らない」人が約 44%にのぼる。「ことばも意味も知っている」人は 24%と世代間では逆に最低となっており、2 つのことばの認識に対する違いがもっとも大きい。(問 2)

(2) バリアフリー化が進まないことの不便さの認識

- ・ バリアフリー化が進まないことの不便さをたずねたところ、「バリアを感じる人が多い」と「バリアを感じることもときどきある」と感じる人は 6 割を超え、国民の過半数が何らかのバリアを感じている。
- ・ 特に障害があつたり、家族内に介護を必要とする人がいたり、未就学児がいる人のほうが、バリアを感じる人が多く、特に女性で未就学児がいる人が 78.9%にのぼり、強

く不便さを感じていることがわかる。

- また、都市規模別では大都市と過疎地域で「バリアを感じることが多い」という回答が比較的多くなっている。(問3)

(3) バリアフリー化の推進に対する評価

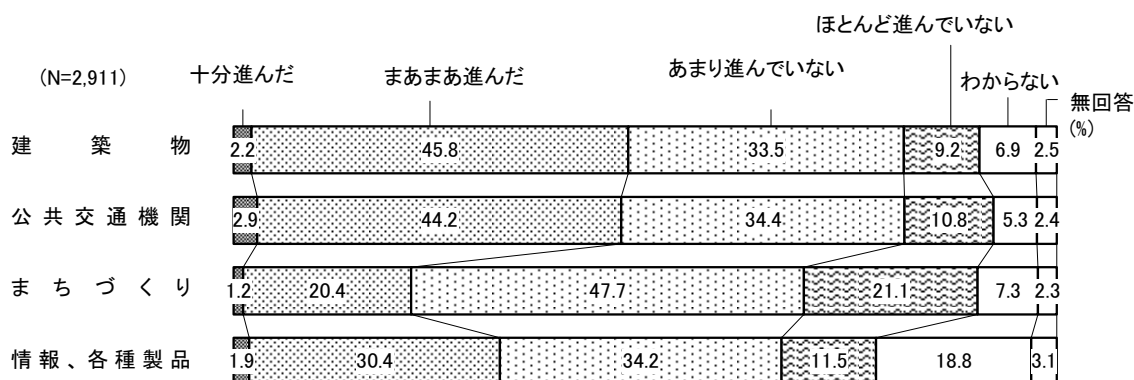
① バリアフリー化全般に対する総合評価

- 5年前と比較したバリアフリー化の評価全般についてみると、<進んだ>と評価する人は半数に達していない。バリアフリー化が<進んだ>（「十分進んだ」と「まあまあ進んだ」の合計）と評価する人は46.7%、<進んでいない>（「あまり進んでいない」「ほとんど進んでいない」の合計）と評価する人は44.3%でほぼ4割ずつとなっている。性・年代別にみても同様の傾向であるが、男女20代、女性30代では<進んだ>と評価する人が多く、女性40代では<進んでいない>と評価する人が多い。
- また、障害がある人や、家族内に要介護者がいる人は<進んでいない>と評価する人が多く、バリアを感じる機会が多い人ほどバリアフリー化に対する評価も低い。
- 評価に関しては、都市規模別での大きな違いはみられない。(問4)

② 分野別での評価

- バリアフリー化に関する分野別の評価をみると、『建築物』や『公共交通機関』では4割以上の人<進んだ>と評価している。『情報、各種製品』では3割程度、『まちづくり』では2割程度であり、個別の分野になると総合評価に較べて<進んでいない>と評価する人が多くなる。(問5～問9、図表4-1-1)

図表4-1-1 バリアフリー化推進に対する評価（全体）



<建築物>

a. バリアフリー化の目標と状況

- 官公庁施設については、既存施設も含めたバリアフリー化が進められてきた。民間の建築物についても、ハートビル法に基づき定められた利用円滑化基準によるバリアフ

リー化が義務づけられ、病院、劇場、ホテル等不特定かつ多数の人が利用し、主として高齢者や身体障害者が利用する建築物については、平成 19 年度末に約 4 割のバリアフリー化が目標となっている。

b. 分野全体の評価

- ・ 建築物の分野では、男女とも若い世代では「進んだ」と評価する人が多い。障害の有無、介護者の有無などでの違いはあまりないが、未就学児の有無別にみると、女性では未就学児がいる人のほうが「進んだ」と評価する人が多くなっている。

c. 個別の評価

- ・ 病院、老人ホーム、官公庁施設のバリアフリー化は「進んだ」と評価する人が多くなっている。病院では、男女とも全年代で「まあまあ進んだ」と回答する人が多い。老人ホームも全年代で「進んだ」と回答する人が多いが、若い年代を中心に「わからない」という回答も多い。商業施設と飲食店等では男女とも全年代で「進んでいない」と評価する人が多くなっている。

<公共交通機関>

a. バリアフリー化の目標と状況

- ・ 旅客施設については、「交通バリアフリー法」に基づき、平成 22 年末までに主要な旅客施設のすべてのバリアフリー化をめざしており、平成 15 年度までに主要バスターミナルの 72.1%、主要旅客船ターミナルの 75.0%でのバリアフリー化が実施されている。車両等については、平成 22 年末までに鉄道車両は 30%の移動円滑化をめざしており、平成 15 年度末には 23.7%が整備されている。旅客船については平成 22 年末までに 50%、航空機では 40%をめざしているが、平成 15 年度末の実施状況ではそれぞれ 4.4%、32.1%となっている。

b. 分野全体の評価

- ・ 公共交通機関の分野では、男性の 20 代でバリアフリー化が「進んだ」と評価する人が多いが、女性の 60 代以上の回答では「わからない」が多くなっている。また、都市規模別にみると、都市規模が大きいほうが「進んだ」と評価する人が多い。

c. 個別の評価

- ・ バスを除き、鉄道や航空機ではターミナルのバリアフリー化が進んだという回答が多くなっている。

<まちづくり>

a. バリアフリー化の目標と状況

- ・ より円滑で安全な移動の確保に向けて、歩行空間のバリアフリー化や都市公園、水辺・海辺空間のバリアフリー化が進められている。平成 22 年末までに主要な旅客施設の周辺等の主な道路や信号機のバリアフリー化を実施するとともに、平成 19 年度までに全国約 1,000 箇所のあんしん歩行エリア内における死傷事故、歩行者・自転車事故を抑制することを目標としている。

- ・都市公園については、園路、トイレ等都市公園における施設のバリアフリー化を進める。河川、海岸等の水辺・海辺空間では、治水対策として堤防等を整備する際、特に近隣に病院や福祉施設等が立地する地区を中心に、水辺にアプローチしやすいスロープ、手すり等を整備し、海岸についても、海辺へアクセスしやすいバリアフリー化に配慮した海岸保全施設の整備を行っている。

b. 分野全体の評価

- ・まちづくりは4つの分野のなかでもっとも評価が低い分野である。年代が上がるに伴い「わからない」の割合が高くなるほか、どの属性も同様の傾向を示している。

c. 個別の評価

- ・全ての年代でバリアフリー化が<進んだ>という評価が比較的高いのが「公衆トイレ」であり、<進んでいない>が多いのが「商店街」である。女性は「都市公園」で「わからない」と回答した人が多い。

<情報・各種製品>

a. バリアフリー化の目標と状況

- ・IT化が急速に進展するなかにあつて、情報通信機器・システムでは、高齢者や障害者に配慮した情報通信機器・サービスの開発・普及、字幕放送・解説放送等の普及、地域におけるIT利活用の支援、高齢者・障害者に配慮した情報アクセシビリティ指針の標準化などが進められている。字幕放送の普及については、2007年までに新たに放送される字幕付与可能な全ての放送番組に字幕を付与することが目標とされ、平成15年度ではNHKでは92.4%、民放では38.7%の番組に字幕が付与されている。
- ・福祉用具、生活用品等については、ユニバーサルデザインの観点から、福祉用具の開発普及支援やユニバーサルデザイン化された各種生活用品等の周知・普及を図っている。

b. 分野全体の評価

- ・情報、各種製品では男女とも30代と40代でバリアフリー化が<進んだ>と評価する人が多い。しかし男性の70歳以上、女性の50代以上では「わからない」の割合が高くなる。また、障害、要介護者があり、未就学児のいる人は<進んだ>と評価する人が多い。
- ・都市規模別では過疎地域で<進んだ>という評価が比較的多くなっている。

c. 個別の評価

- ・「TVの字幕放送」では半数以上がバリアフリー化が<進んだ>と回答しているが、「インターネット」、「新聞書籍雑誌」、「PC等情報機器」、「家電製品の操作性」では3割程度となり、「情報通信機器の取扱説明書」、「家電の取扱説明書」では1割程度と低くなる。

[加重平均値]

- ・「十分進んだ」に2点、「まあまあ進んだ」に1点、「あまり進んでいない」に-1点、「進んでいない」に-2点、「わからない」に0点を与え、すべての回答を加算し、無回答を除いた回答者数で除したもの。
- ・この値がプラスだとバリアフリー化が進んだ、マイナスだと進んでいない、ということになる。

③ 項目別での評価

- ・ 個別の項目の回答に加重平均を与えた結果を一覧にしたものが下の表である。
- ・ <進んだ>という評価(0～1の欄)が多かったのは、『建築物』では「老人ホーム等」、「病院等」等の公共的建築物、『公共交通機関』では「航空旅客ターミナル」、「航空機」等の航空施設、『情報・各種製品』では「TVの字幕放送」、「インターネット」等である。
- ・ <進んでいない>という評価(0～-1、-2～-1の欄)が多かったのは、『建築物』では「飲食店等」、「ビル・事務所等」、「遊戯施設」、「映画館・劇場」などの民間施設である。『公共交通機関』では「バス」や「バスターミナル」、「鉄軌道車両」など比較的身近な交通機関が挙げられている。『まちづくり』ではすべて<進んでいない>の欄となっているが、その中でも「公衆トイレ」のポイントが比較的高く、「商店街」が最も低い。『情報・各種製品』では「情報通信機器の取扱説明書」、「家電の取扱説明書」といった“説明書”の評価が低くなっている。
- ・ 全体を通して評価のポイントが高いのは「老人ホーム等」、「病院等」であり、評価のポイントが低いのは「飲食店等」、「商店街」である。

図表4-1-2 バリアフリー化推進に対する評価(全体)

| | 建築物 | 公共交通機関 | まちづくり | 情報、各種製品 |
|---------|---------|---------------|--------------------------------------|----------------|
| 0～1 | 老人ホーム等 | 0.68 | | |
| | 病院等 | 0.55 | | |
| | 官公庁施設 | 0.30 | 航空旅客ターミナル 0.33 | TVの字幕放送 0.38 |
| | 博物館・美術館 | 0.10 | | インターネット 0.09 |
| | 図書館 | 0.04 | 航空機 0.05 鉄軌道駅 0.03 | PC等情報機器 0.06 |
| -1～0 | 宿泊施設 | -0.23 | 旅客船ターミナル -0.09 | 新聞書籍雑誌 -0.11 |
| | 商業施設 | -0.28 | 旅客船 -0.18 | 家電製品の操作性 -0.13 |
| | | | 公衆トイレ -0.16 | |
| | | | 都市公園 -0.29 | |
| | | | 鉄軌道車両 -0.31 | 日常雑貨・家具 -0.30 |
| | 映画館・劇場 | -0.41 | バス -0.39 | |
| | 遊戯施設 | -0.56 | | 歩行空間 -0.51 |
| ビル・事務所等 | -0.58 | バスターミナル -0.59 | 家電の取扱説明書 -0.61 情報通信機器の取扱説明書 -0.65 | |
| -2～-1 | 飲食店等 | -1.04 | 水辺海辺空間 -0.72 商店街 -0.92 | |

④ 障害、要介護者の有無でみた評価

- ・ 各分野別の評価について、さらに、未就学児、障害、要介護者の有無の分析軸で比較した結果をみる。下表はこのうち、全体との比較や分析軸での比較でみられた傾向を整理している。
- ・ 建築物については、「老人ホーム等」、「病院等」、「官公庁施設」などでは障害がある人の方が評価が低い、「遊戯施設」、「ビル事務所等」、「飲食店等」については障害がない人の方が評価が低い。
- ・ 公共交通機関については、「航空旅客ターミナル」、「航空機」では未就学児がいる人の方が評価が高く、「鉄軌道駅」、「鉄軌道車両」では未就学児がいる人の方が評価が低い。

図表 4-1-2-① バリアフリー化推進に対する評価（全体）

| | 建築物 | | 公共交通機関 | |
|-------|---|---|---|--|
| | 障害あり | 障害なし | 未就学児あり | 未就学児なし |
| 0~1 | | 老人ホーム等 0.72 病院等 0.60 官公庁施設 0.33 | | |
| | 老人ホーム等 0.53 病院等 0.35 | | 航空旅客ターミナル 0.39 | 航空旅客ターミナル 0.32 |
| | 官公庁施設 0.16 | 博物館・美術館 0.15 図書館 0.08 | 航空機 0.06 | 鉄軌道駅 0.05 航空機 0.05 |
| -1~0 | 美術館・博物館 -0.10 図書館 -0.12 | 宿泊施設 -0.21 商業施設 -0.27 | 旅客船ターミナル -0.02 旅客船 -0.11 鉄軌道駅 -0.12 | 旅客船ターミナル -0.09 旅客船 -0.19 鉄軌道車両 -0.30 |
| | 商業施設 -0.31 宿泊施設 -0.31 映画館・劇場 -0.43 遊戯施設 -0.48 ビル・事務所等 -0.53 | 映画館・劇場 -0.41 遊戯施設 -0.58 ビル・事務所等 -0.60 | バス -0.41 鉄軌道車両 -0.43 バスターミナル -0.63 | バス -0.39 バスターミナル -0.59 |
| | 飲食店等 -0.90 | 飲食店等 -1.08 | | |
| -2~-1 | | | | |

- ・ まちづくりについては、「公衆トイレ」、「都市公園」は要介護者がいる人の方が、評価が低くなっている。
- ・ 情報、各種製品については、「インターネット」、「PC等情報機器」では障害がない人の評価が高く、その他の項目では障害がある人の方が評価が高くなっている。

図表 4-1-2-② バリアフリー化推進に対する評価（全体）

| | まちづくり | | 情報・各種製品 | | | |
|------|--------|--------|--------------|-------|--------------|-------|
| | 要介護者あり | 要介護者なし | 障害あり | | 障害なし | |
| 0～1 | | | TVの字幕放送 | 0.40 | TVの字幕放送 | 0.37 |
| | | | | | インターネット | 0.10 |
| | | | インターネット | 0.07 | PC等情報機器 | 0.07 |
| | | | PC等情報機器 | 0.02 | | |
| -1～0 | | 公衆トイレ | | | 新聞書籍雑誌 | -0.14 |
| | | 都市公園 | | | 家電製品操作性 | -0.16 |
| | | | 公衆トイレ | -0.14 | 日常雑貨・家具 | -0.33 |
| | | | 都市公園 | -0.29 | 家電の取扱説明書 | -0.63 |
| | | | 歩行空間 | -0.52 | 情報通信機器の取扱説明書 | -0.67 |
| | | | 水辺海辺空間 | -0.72 | | |
| | 公衆トイレ | -0.23 | | | | |
| | 都市公園 | -0.34 | | | | |
| | 歩行空間 | -0.52 | | | | |
| | 水辺海辺空間 | -0.71 | | | | |
| | 商店街 | -0.91 | | | | |
| | | | 公衆トイレ | -0.14 | | |
| | | | 都市公園 | -0.29 | | |
| | | | 歩行空間 | -0.52 | | |
| | | | 水辺海辺空間 | -0.72 | | |
| | | | 商店街 | -0.93 | | |
| | | | 新聞書籍雑誌 | -0.01 | | |
| | | | 家電製品操作性 | -0.02 | | |
| | | | 日常雑貨・家具 | -0.21 | | |
| | | | 家電の取扱説明書 | -0.55 | | |
| | | | 情報通信機器の取扱説明書 | -0.58 | | |
| | | | | | 新聞書籍雑誌 | -0.14 |
| | | | | | 家電製品操作性 | -0.16 |
| | | | | | 日常雑貨・家具 | -0.33 |
| | | | | | 家電の取扱説明書 | -0.63 |
| | | | | | 情報通信機器の取扱説明書 | -0.67 |

(4) 重点的な取組みに対する希望

- ・ 建築物では、バリアフリー化が<進んだ>と評価する人が多かった「病院、診療所等医療施設」のほか、<進んでいない>と評価する人が多かった「スーパーマーケット等商業施設」や「飲食店等」のバリアフリー化を求める人が多い。
- ・ 公共交通機関全体では<進んだ>と<進んでいない>が半々程度であったが、半数近く<進んだ>と評価する人がいた「鉄軌道駅」では今後のとも重点的に取り組むべきという意見が70%以上にのぼっている。他方、<進んでいない>と評価する人が多かった「バス」、「鉄軌道車両」、「バスターミナル」等においても、重点的に取り組むべきという意見が50%程度かそれ以上となっている。
- ・ まちづくりでは、圧倒的に「歩道等歩行空間」のバリアフリー化を求める人が多い。
- ・ 情報・各種製品では、「新聞・書籍・雑誌」と「字幕放送・解説放送」のバリアフリー化がさらに求められている。
- ・ いずれも一部を除き、現状で<進んでいない>と感じている分野へのバリアフリー化に対する強い要望があらわれている。(問10～問13)

(5) 心のバリアフリー

① 外出時の手助け

- ・ 車いすの方や視覚障害の人に<手助けしている>（「つねに手助けをしている」と「できるだけ手助けをしている」の合計）という人は、<手助けをしていない>（「手助けをしたかと思っっているが、行動には移していない」、「手助けをしたいとは思わない」の合計）をやや上回っている。行動に移せず手助けをしない人が約4割にのぼっている。
- ・ 手助けをしない理由は、「かえって相手の迷惑になる」、「対応方法がわからない」が上位を占めている。
- ・ 障害の有無別にみると、障害がない人のほうが手助けをしているが、障害がある人でも50%を超えている。
- ・ 都市規模別にみると、大都市で「手助けをしている」割合がやや高くなっている。(問14、問15)

② 心のバリアフリーの実践

- ・ 自分の周囲での心のバリアフリーの実践については、<実践している>（「そう思う」と「まあまあそう思う」の合計）が、<実践していない>（「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合計）をやや上回っている。(問16)
- ・ 心のバリアフリーの実現に向けて最も必要なことは、どの項目も3割を超えているが、なかでも「学校教育などでバリアフリーを学ぶ機会を増やすこと」、「さまざまな人が

交流する機会がもっと増えること」が最も多い。 (問 17)

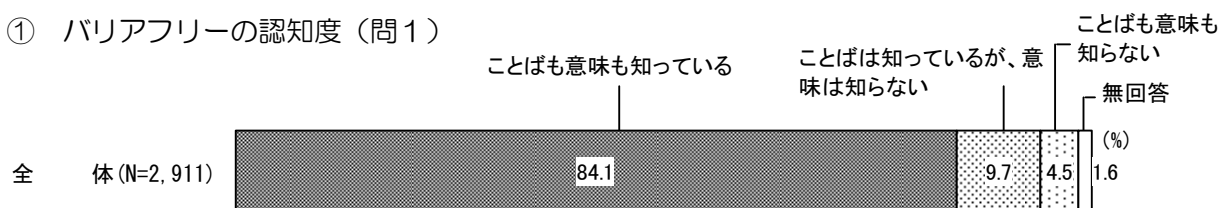
(6) バリアフリー化推進に向けて国や地方公共団体に求めること

- ・ 4割以上が「民間の自主的な取組への財政的な支援」、「関係者への指導」、「民間の自主的な取組みへのソフト的支援」、「法令、条例による義務づけ」と回答している。
(問 18)

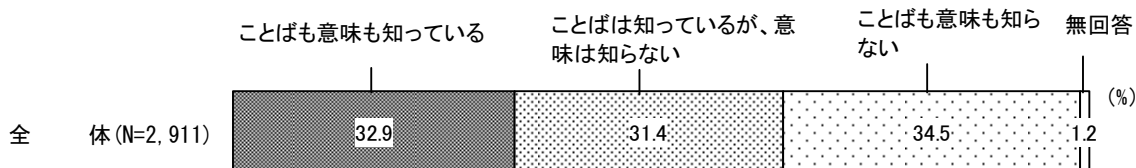
図表4-1-3 国民意識調査にみるバリアフリー化の状況（全体）

(1) バリアフリー・ユニバーサルデザインの認知度

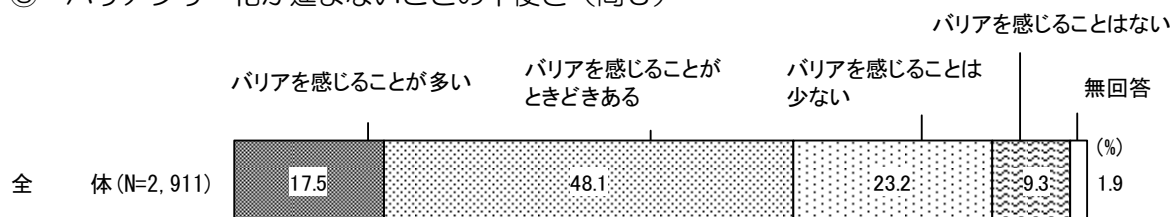
① バリアフリーの認知度（問1）



② ユニバーサルデザインの認知度（問2）

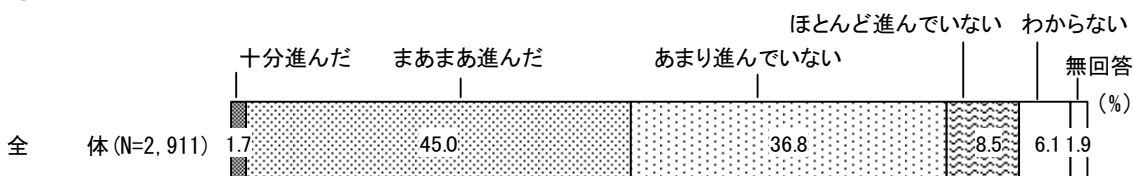


③ バリアフリー化が進まないことの不便さ（問3）

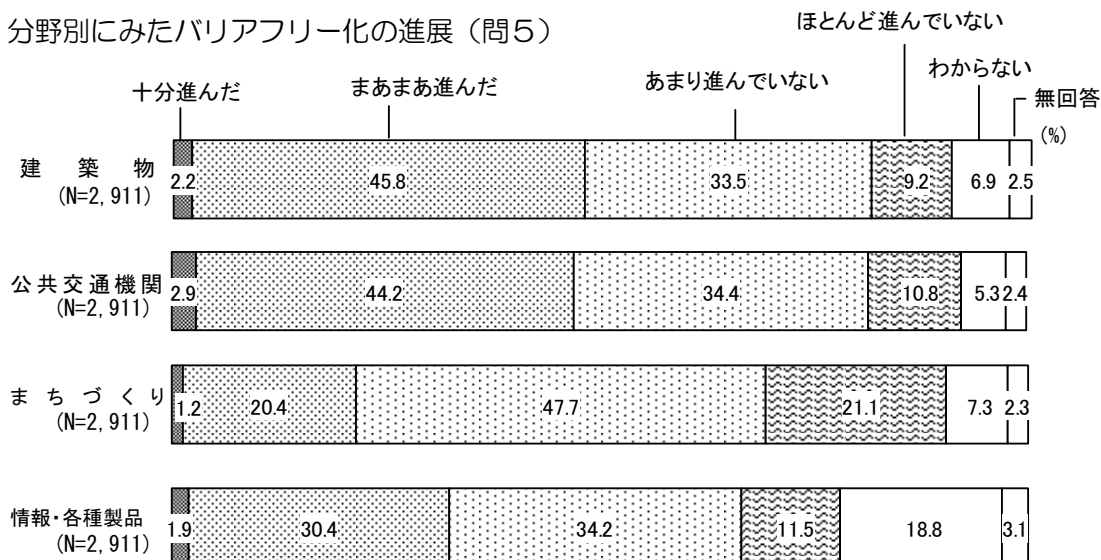


(2) 5年間でのバリアフリー化評価

① 5年前と比較してのバリアフリー化の進展（問4）

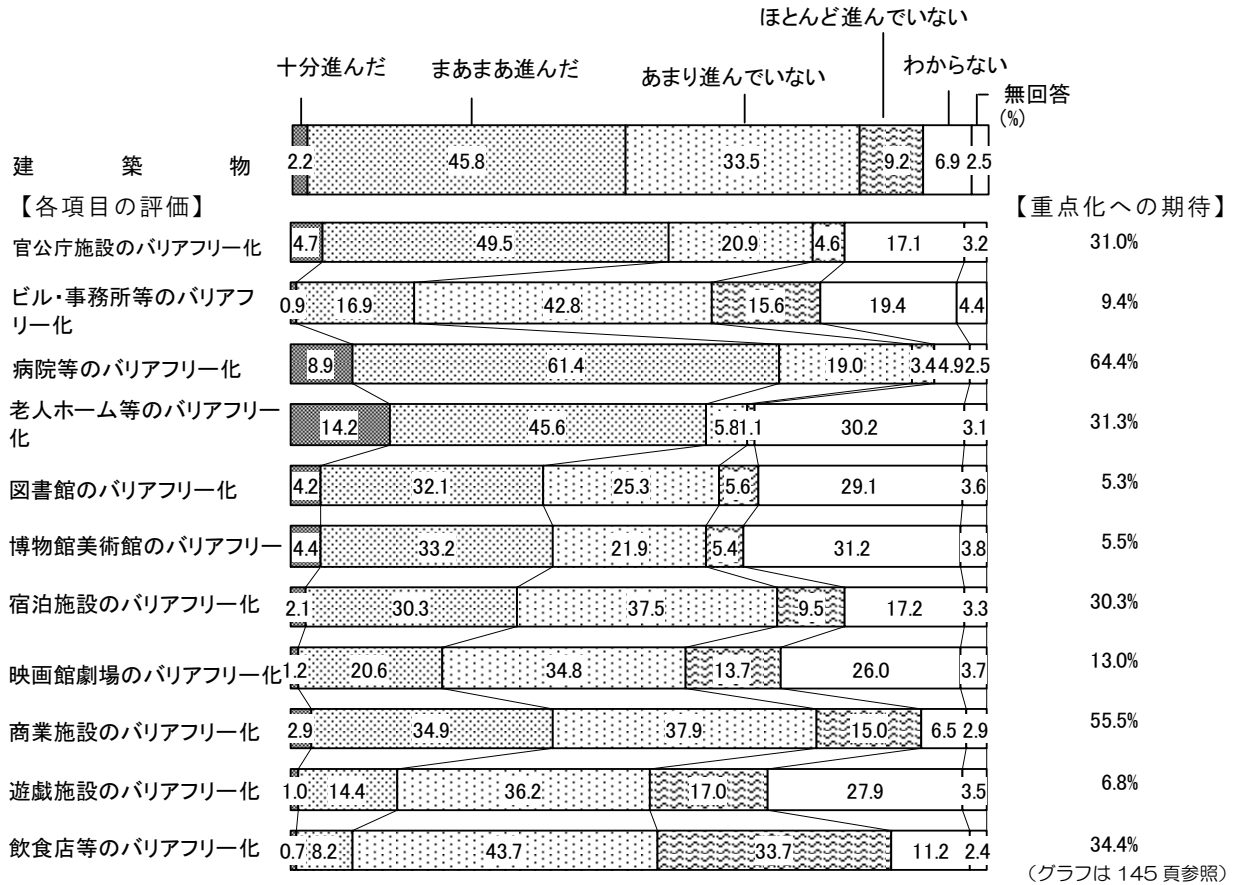


② 分野別にみたバリアフリー化の進展（問5）

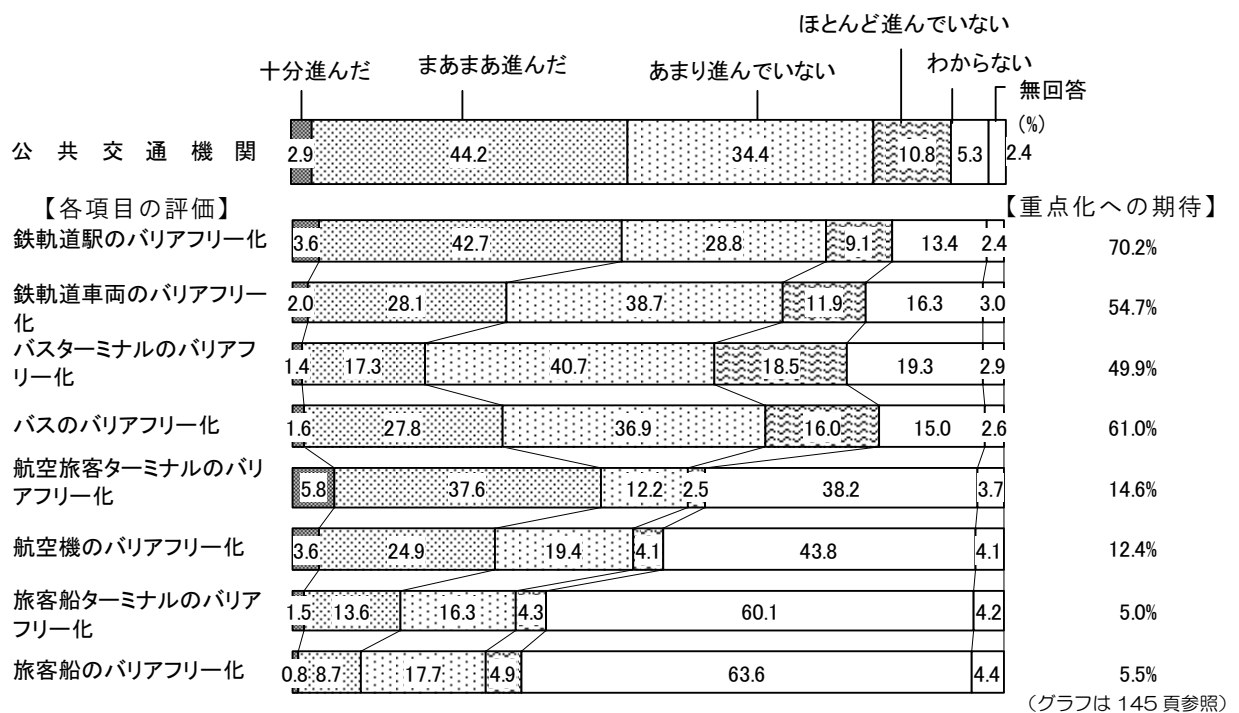


③ バリアフリー化の分野別の詳細評価（問6・問7・問8・問9）

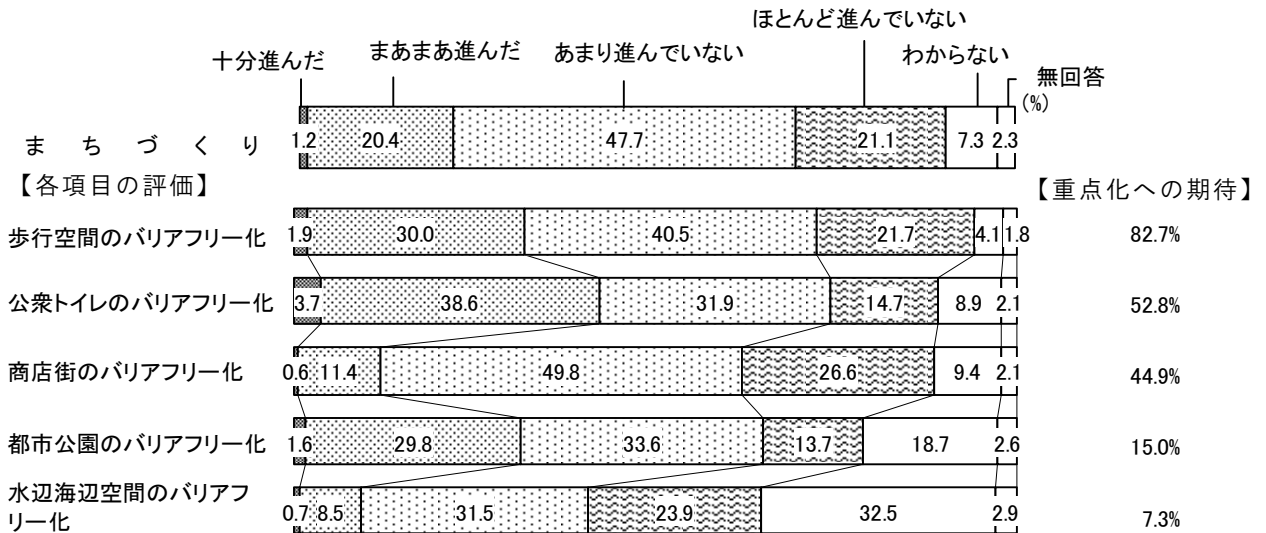
◆建築物



◆公共交通機関

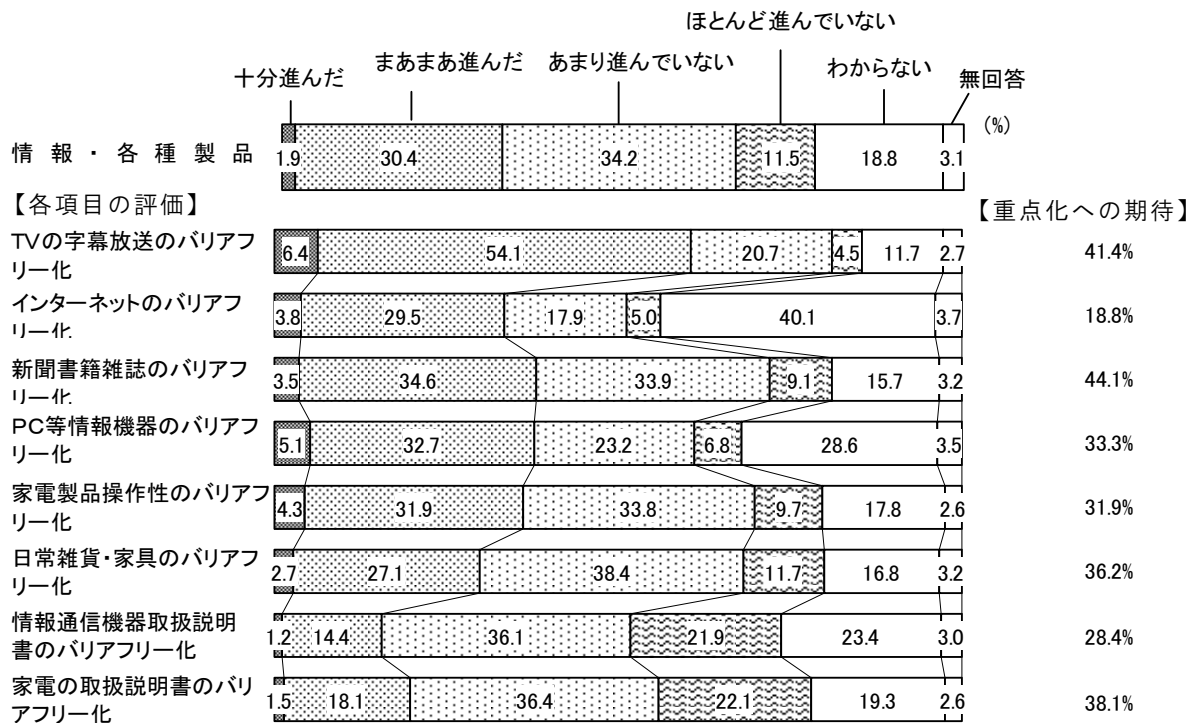


◆まちづくり



(グラフは 145 頁参照)

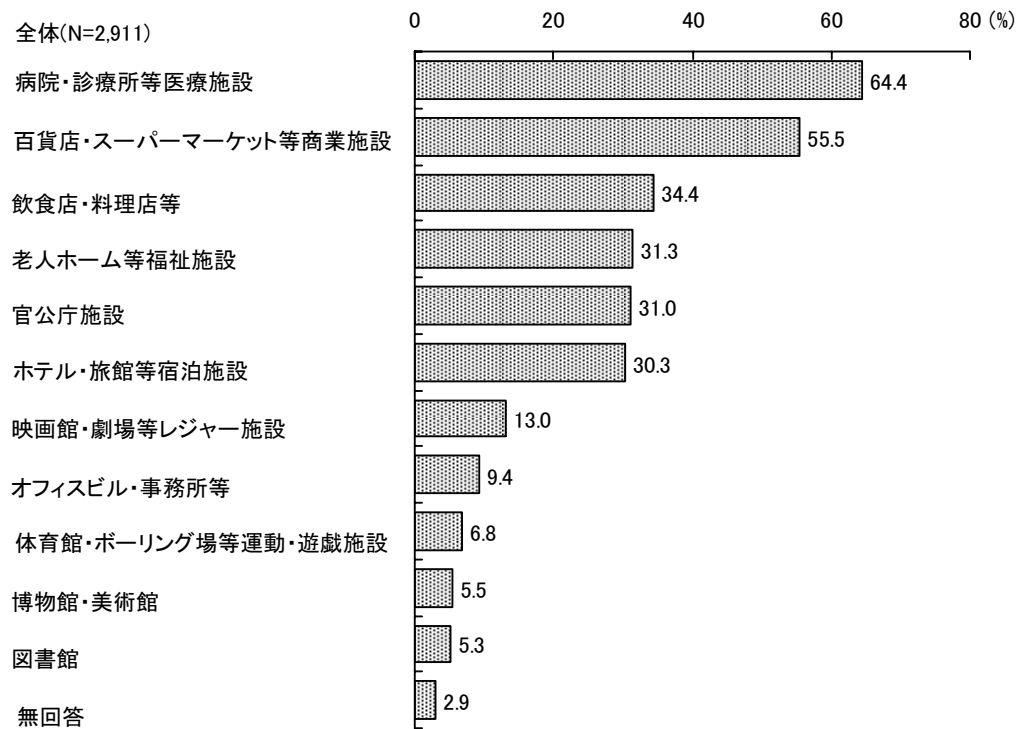
◆情報・各種製品



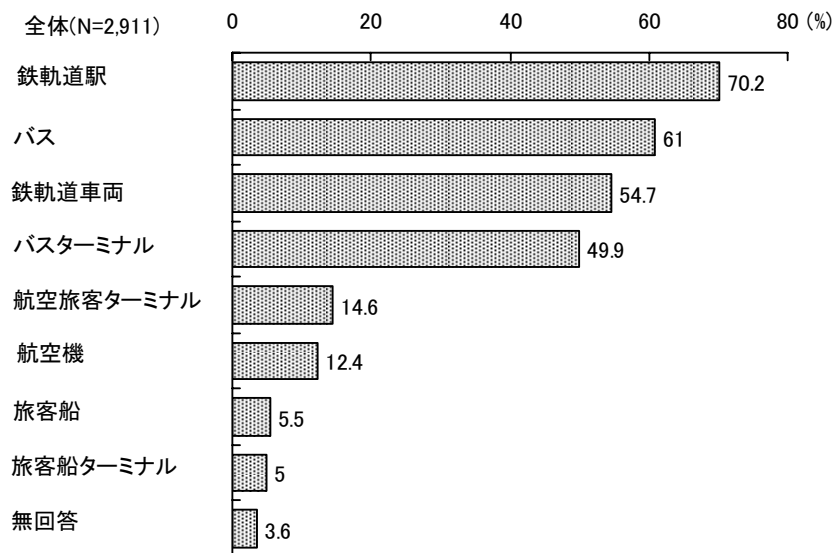
(グラフは 146 頁参照)

(3) 重点的な取組み

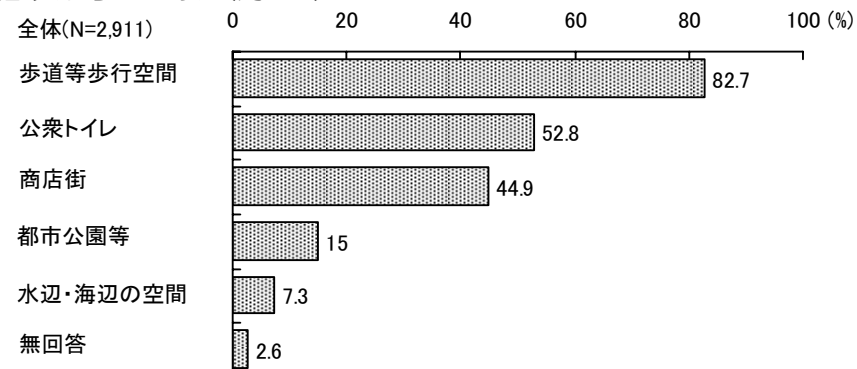
① 重点的な取組み(建築物) (問 10)



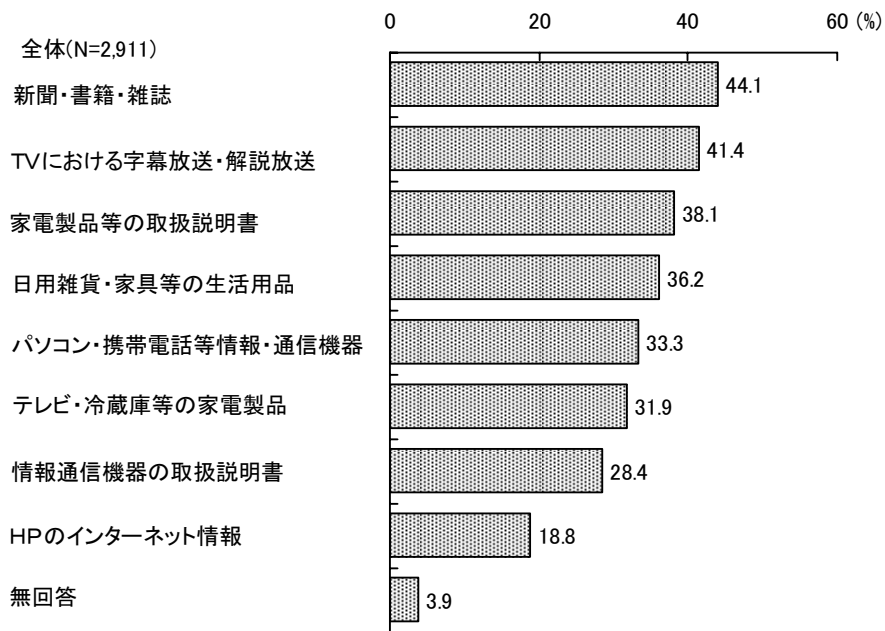
② 重点的な取組み(公共交通機関) (問 11)



③ 重点的な取組み(まちづくり) (問 12)

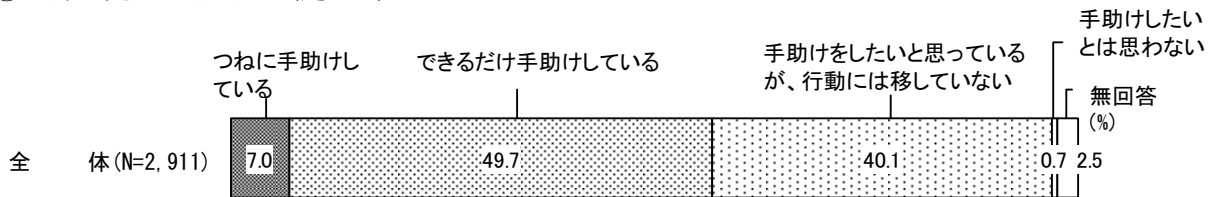


④ 重点的な取組み(情報・各種製品) (問 13)

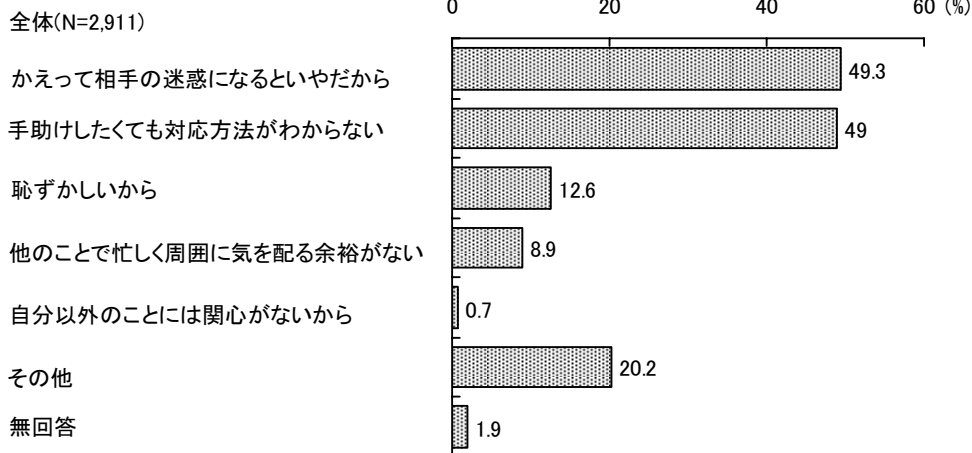


(4) 心のバリアフリー

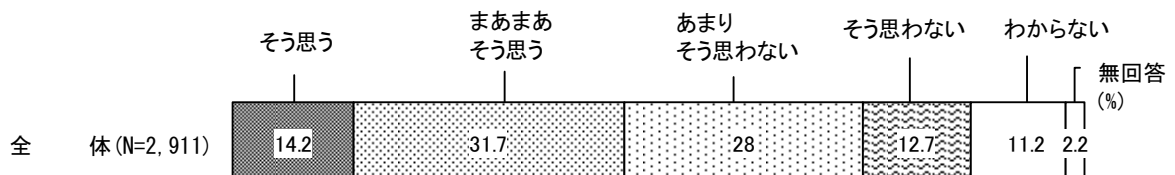
① 外出先での手助け (問 14)



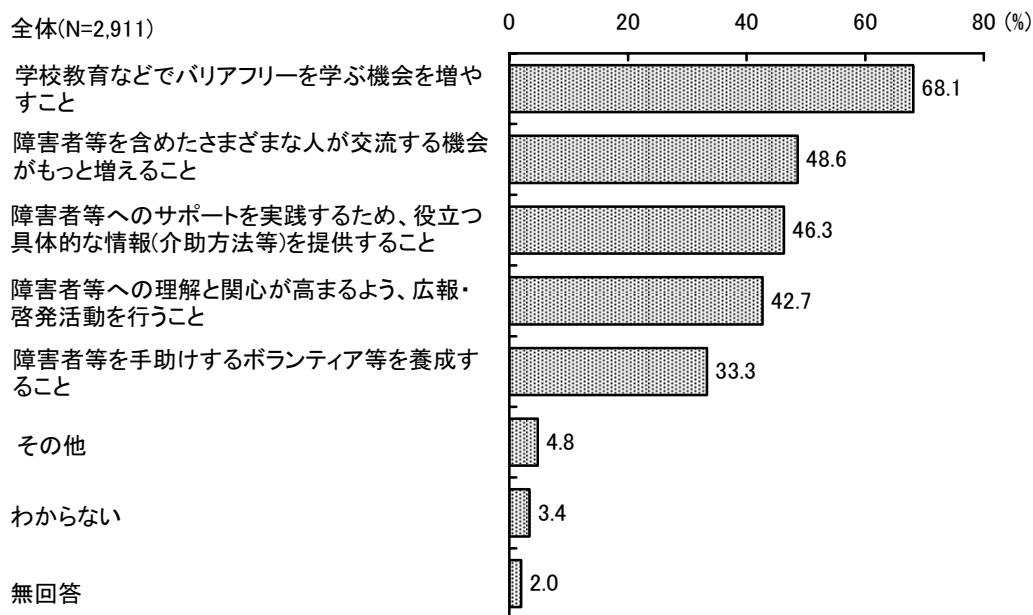
② 手助けしない理由 (問 15)



③ 心のバリアフリーの実践 (問 16)



④ 心のバリアフリーを実践するために必要なこと（問 17）



(5) バリアフリー化を推進するために期待すること（問 18）

